



大牟田「まちなか再生」未来ビジョン

2024年3月 大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム

00 目次

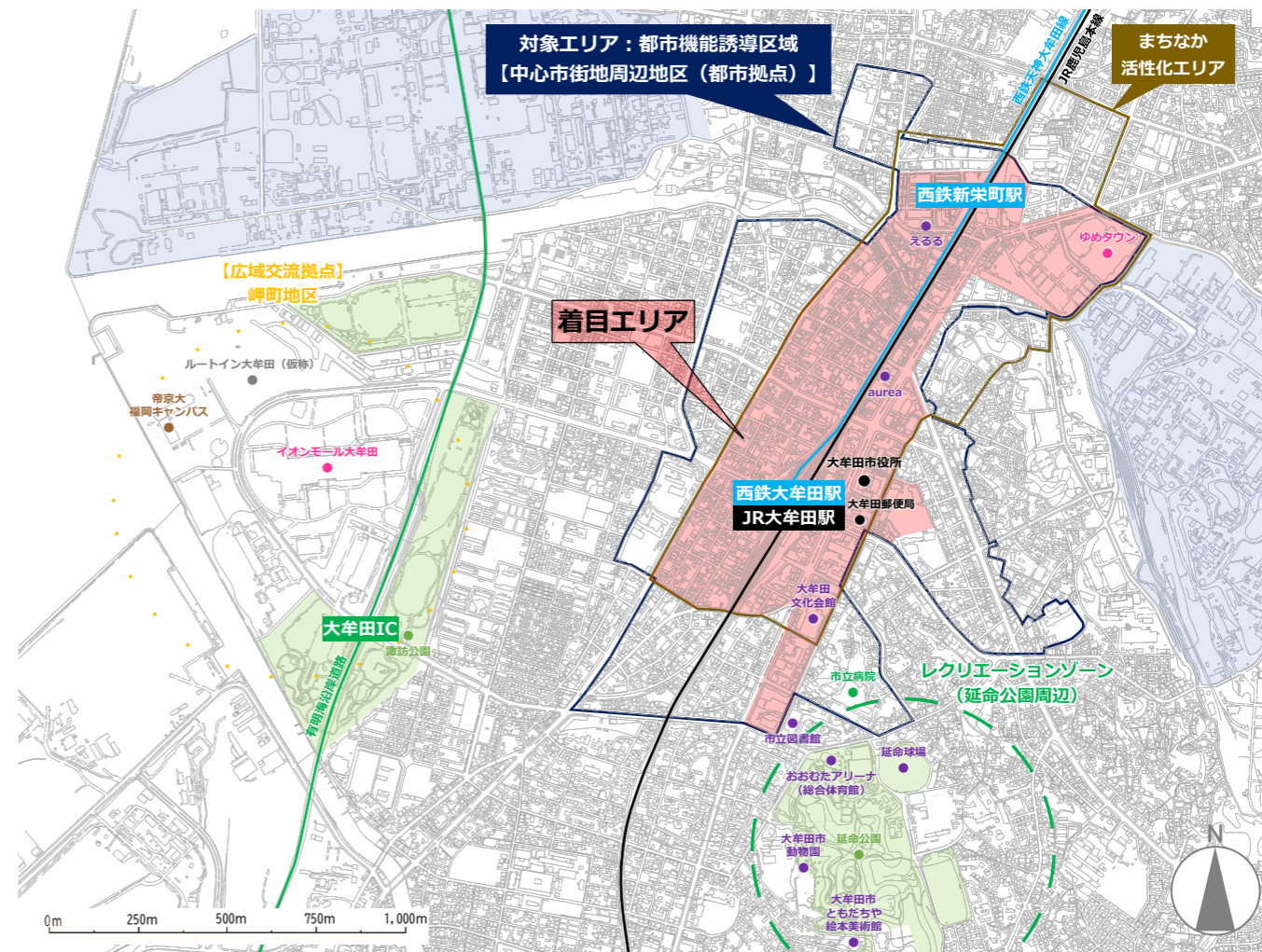
01 まちなか再生に向けた基本的な考え方	1
(1) まちなか再生とは	
(2) 未来ビジョンとは	
02 地域特性の現状分析	2
(1) 大牟田の位置づけとポテンシャル	
(2) まちなかの現状と課題	
03 「まちなか再生」未来ビジョン	4
(1) まちなか再生の考え方	
(2) まちなかの目指す姿	
(3) エリアの将来像	
(4) 実現イメージ	
04 今後の進め方	11
(1) リーディングプロジェクト	
(2) 新たな推進体制の構築	
(3) ロードマップ	
(4) リーディングプロジェクトロードマップ	
巻末資料	13
大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム	
活動記録	

01 まちなか再生に向けた基本的な考え方

(1) まちなか再生とは

- かつての大牟田市のまちなかは、商店や百貨店が集積し、また鉄道やバスなど多様な交通手段に支えられた地域として、周辺市町から多くの人を訪れる地域経済の中心として機能していました。
- しかし現在では、人口減少に加えモータリゼーションの進展等により居住や消費が郊外化した結果、まちなかの居住者や来街者が減少し、空き家・空地・空き店舗等の低未利用地が発生する「都市のスポンジ化」が進行して、まちなかの活力が低下しています。
- これは、市の人口が集中する地区（DID）は拡大する一方で人口密度は低下しており、このまま低密度な市街地の状態で更に人口減少や高齢化が進めば、一定の人口集積に支えられてきた商業施設、医療施設、公共交通等の生活を支えるサービスの維持が困難になるほか、道路や下水道などの公共インフラの維持や行政サービスの提供が非効率化し、財政負担の増加にもつながります。
- このため、市では生活に必要な都市機能を集積し、公共交通の利便性を高める「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の形成が進められています。まちなかは、居住・商業・交通等の都市機能が集積し、鉄道駅と路線バスで周辺地域と結ばれる交通結節機能を有した求心力のある「まちなかの顔」であり、「大牟田市都市計画マスタープラン」では市に1つしかない「都市拠点」に位置づけ、市の玄関口にふさわしい都市空間の形成を目指しています。
- 現在のまちなかは、福岡や熊本都市圏を結ぶ JR や西日本鉄道の駅（乗降客数1万人以上/日）が存在するほか、市役所や郵便局など行政機関をはじめ、イノベーション創出拠点「aurea」、市民活動等多目的交流施設「えるる」、大型商業施設など、多様な都市機能・インフラが集積した市内で大きなポテンシャルを有し、発展の可能性を秘めたエリアです。また周辺には、全国初となる「絵本美術館」を有する大牟田市動物園（来園者数20万人以上/年）をはじめ、新総合体育館「おおむたアリーナ」整備など延命公園全体の賑わい交流拠点化が進む「延命公園周辺地区」、帝京大学をはじめ、広域から多くの集客がある諏訪公園や大型商業施設を有し、新たに大規模な宿泊施設が進出する「岬町地区」があり、まちなかとの連携が期待されています。
- これから公・民・学が連携して取り組む「まちなか再生」は、みんなが幸せを実感できる働き方・遊び方・暮らし方・学び方などについて、自分事としてとらえながら大牟田の良さを活かしつつ、エリアの魅力や価値を上げていくための取り組みです。
- このため、ハード・ソフト両面での取り組みを行うなかで、大牟田に関わる人や愛着を持つ人を増やし、まちづくりに関わることができる場の提供や、まちづくりと人とのマッチングを行い、多くの人をまちづくりに巻き込むことが重要です。これにより、まちなかは人が光り輝き、スポットを浴び、眠っている能力を活かせるような場となり、まちなか再生のプロセスにおいて付加価値が見出されます。
- まちなかを再生することによって、「まちなかの価値」が高まり、郊外へ波及して「まち全体の魅力や価値」を上げていくことに繋げるものです。

■まちなか再生の対象エリア



*まちなか再生の対象エリアは、まちなか活性化エリア（市が策定した「大牟田市まちなか活性化プラン」）を概ね包含する、大牟田市立地適正化計画における「都市機能誘導区域（中心市街地周辺地区：都市拠点）」と同エリアとします。

*また、これら2つの区域が重複するエリアは、プロジェクトの創出や事業効果が高いため、まちなか再生の「着目エリア」と設定して、具体的なプロジェクトや取組む施策を位置づけます。

■まちなかの基礎情報

○人口・世帯数（出典：令和2年国勢調査）

	大牟田市	まちなかエリア	着目エリア
人口（人）	111,281	11,294 (10.1%)	4,761 (4.3%)
世帯数（世帯）	49,231	5,872 (11.9%)	2,623 (5.3%)

※（%）は、市全体に対する構成比を示す。

○鉄道の乗降客数（出典：令和3年版大牟田市統計年鑑より算出）

JR大牟田駅 | 3,822人/日、西鉄大牟田駅 | 6,931人/日、西鉄新栄町駅 | 3,010人/日

○まちなかに立地する主な公共施設

国 | 大牟田税務署

県 | 大牟田警察署

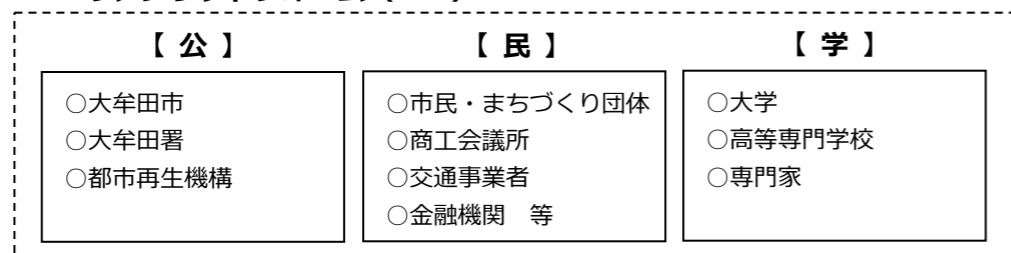
市 | 大牟田市役所、大牟田文化会館、えるる、大牟田観光プラザ、市立病院

01 まちなか再生に向けた基本的な考え方

(2) 未来ビジョンとは

- 未来ビジョンとは、将来的な大牟田の魅力創出及び活力の維持向上のため、公・民・学で共有するエリアの将来像とその実現のための取組指針を定めるものです。
- 未来ビジョンは、公・民・学で合意する将来の共通目標として、地域における最上位計画に位置づけられ、各主体においては、次のような取組みや効果が期待されます。
 - 公：未来ビジョンから必要な取組みを、行政計画に反映・実行する
 - 民：未来ビジョンを拠り所に、経済活動や市民活動を展開する
 - 学：未来ビジョンの実現に向け、専門的・学術的な見地から支援・活動する
- 概ね 20 年後を目標とし、社会情勢等の変化に的確に対応するために、適宜見直します。

■エリアプラットフォーム (APF)



公・民・学連携による地域の計画

大牟田「まちなか再生」
未来ビジョン

公・民・学連携による
未来ビジョンの共有と
まちづくりの実践

02 地域特性の現状分析

(1) 大牟田の位置づけとポテンシャル

【機能的な役割】

- 大牟田市は、環・有明海の中心都市で主要な機能がまちなかに集中し、経済・商工や観光の分野を牽引しています。
 - ▶その他、有明圏域定住自立圏の中心市として、さらには大牟田市立病院や有明高専、帝京大学の立地は、行政、医療、教育の分野で有明海沿岸都市における中心的な存在となっています。

【交通のネットワーク】

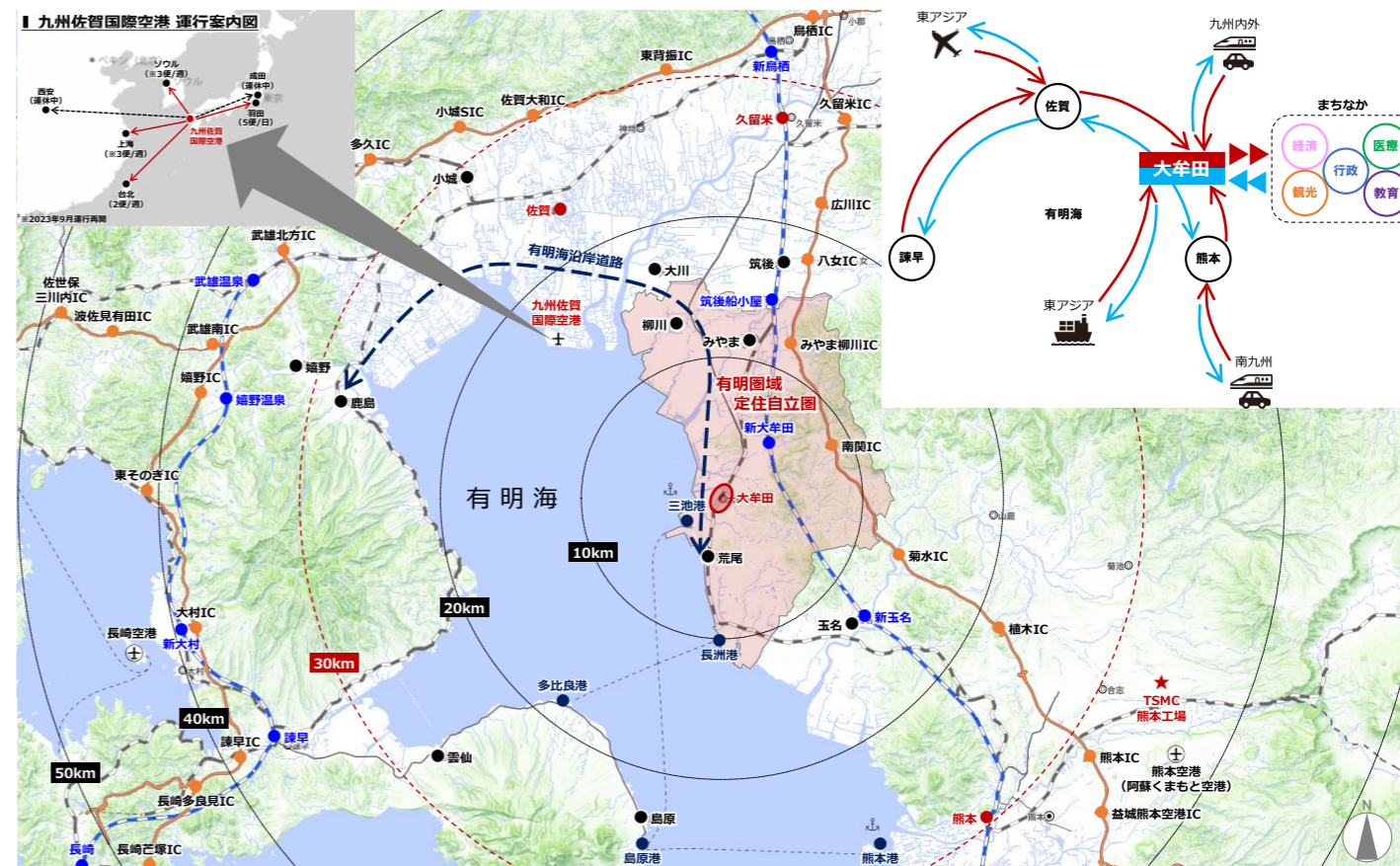
- まちなかは広域交通の結節点となっており、陸・空・海の各拠点から九州内外や東アジアの都市へと繋がっています。

- ・空路/九州佐賀国際空港-国内 > 羽田 (5便/日), 成田 (運休中)
-海外 > ソウル (4便/週→1便/日), 上海 (2便/週), 台北 (2便/週), 西安 (運休中)
- ・航路/三池港-国内 > 三池~島原定期航路 (4便/日), 沖縄向け輸送貨物
-海外 > 三池港~釜山港間コンテナ定期航路 (1便/週)
釜山港経由~主に大連, 新港, 上海, 蛇口, 香港, ホーチミン, バンコク等が可能
- ・鉄道/九州新幹線 (新大牟田駅), JR 鹿児島本線 (大牟田駅), 西鉄天神大牟田線 (大牟田駅, 新栄町駅)
- ・高速道路/九州自動車道 (南関 IC), 有明海沿岸道路

【マーケットポテンシャル】

- 大牟田市を中心に、環・有明海の 80 万人都市圏を形成するほか、30km 圏内には熊本市・佐賀市・久留米市といった九州の主要都市が存在するなど、大きなポテンシャルを有しています。

- ・有明海沿岸道路による 80 万人都市圏 (平成 31 年 3 月時点) 出典：2019 有明海沿岸国道事務所事業概要
- 福岡県 | 大牟田市 (11.5 万人), 柳川市 (6.6 万人), 八女市 (6.4 万人), 筑後市 (4.9 万人), 大川市 (3.4 万人), みやま市 (3.8 万人), 大木町 (1.4 万人)
- 佐賀県 | 佐賀市 (23.3 万人), 鹿島市 (2.9 万人), 小城市 (4.5 万人), 白石町 (2.3 万人), 江北町 (1.0 万人)
- 熊本県 | 荒尾市 (5.3 万人), 南関町 (1.0 万人),
- ・30km 圏内の九州主要都市の人口 (R2 国勢調査) | 熊本市 (73.9 万人), 佐賀市 (23.3 万人), 久留米市 (30.3 万人)



02 地域特性の現状分析

(2) まちなかの現状と課題

○まちなかの課題について、大牟田市やまちなかの現状分析に加えて、上位・関連計画におけるまちなかの位置づけや市民ニーズ等を含めて抽出される内容は、次のように整理されます。



<まちなかの課題>

人口構造変化への対応

- 人口減少の進展
- 高い高齢化率
- 生産年齢人口の減少 (将来、老年人口と同比率)

低未利用地や空間の利活用

- 空き家・空地・空き店舗の増加、危険な空き家の存在
- 地価の継続的な下落

まちなかの安全安心と潤い(緑)の確保

- 緑量の不足
- 公園が少ない、使われていない
- まちなかの浸水エリア(R2.7 豪雨時)



<まちなかの位置づけ・特色・主な市民ニーズ等>

魅力ある都市の顔づくり

- 市の玄関口に相応しい都市空間・都市拠点の形成
- 魅力ある都市空間形成
- 大牟田駅周辺、大牟田駅～市役所、国道208号の顔づくり
- 庁舎整備の推進
- JRと西鉄を自由に行き来
- 滞在できるエリアの構築

まちなか居住の推進

- まちなか居住の推進、促進
- 快適に暮らせる居住環境づくり
- 居住環境改善、住環境向上
- 老朽化した空家等の除却、老朽建築物の除却
- 住宅建設の誘導
- 新栄町再開発事業
- 空き家リノベーションの取組み

活躍の場や新しい産業の創出

- 多数の高等教育機関の立地
- 若者の居場所づくり
- わかもの会議の推進
- イノベーションの推進
- 学べる機会や場の創出
- 学生・若者の人材育成、活用
- 交流空間の確保
- 起業やオフィス立地の促進
- 事業所・オフィスを誘致
- 多様な働き方への対応
- 人材交流の促進
- 多種多様な活動の促進
- 空き店舗を活用、空き店舗への出店増加

公共空間や交通環境の再編・改善

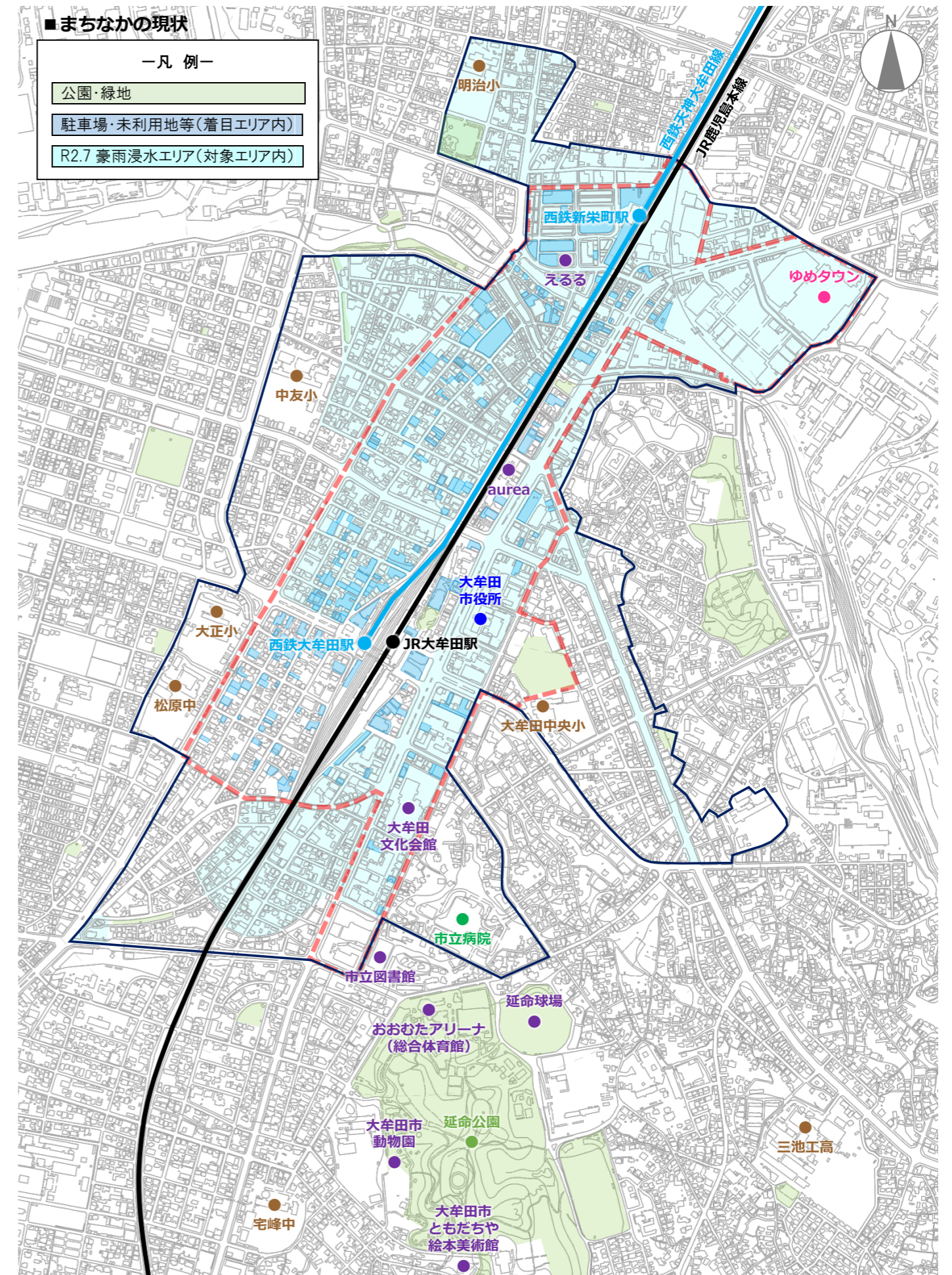
- 魅力的な公共空間づくり
- 駅前らしさ、駅周辺のにぎわいづくり、魅力向上
- 歩いて楽しいまちなみ、回遊の促進
- 資源を活用した賑わいづくり
- 持続可能な公共交通サービス
- 公共交通の結節点機能の強化及び充実
- 移動手段を充実
- 交通利便性の確保

防災機能の改善と緑環境の向上

- 都市防災の強化
- 集中豪雨時の浸水対策
- 避難路・避難施設の確保
- 公共公益施設の緑化推進
- 緑とオープンスペースの活用
- エリア全体の緑化推進

<まちなか再生の考え方>

<大牟田まちなかの目指す姿>



03 「まちなか再生」未来ビジョン

(1) まちなか再生の考え方

○地域特性の分析や再生に当たっての課題等を踏まえ、“居心地が良く、訪れたい、歩きたいまちなか”の創造を図るまちなか再生の考え方は、次のとおりです。

① 都市活力の維持・向上を図る交流・関係人口の拡大

人口減少が進展する中、地域経済が発展し、まちに賑わいがある（都市に活力がある）状態を維持・向上するためには、本市の立地ポテンシャルを活かして、周辺市町から人を呼び込むことが必要です。

② 県南広域市町村エリアの中心となるシンボリックな都心空間の形成

本市を象徴するようなシンボリックな都心空間は、都市をより魅力的にし、他の都市との差別化を図ることができるほか、市民の誇りや愛着にもつながります。

③ 分散拠点ネットワーク型都市構造の中心となる交通結節ハブの構築

まちなかは、鉄道・バスによって周辺地域とつながっているエリアであり、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方のもと、市民に欠かせない医療・福祉・商業などの都市機能を維持するためには、市内を効率的に結ぶ公共交通ネットワークの構築が必要です。

④ 緑豊かで災害に強い都心部の形成

都市防災の強化は、市民が安心安全に暮らしていく上で重要な要素であり、都市に美しさや安らぎを与える緑地は、雨水の浸透など防災面での効果もあります。

⑤ 市民の憩いの「場」、ビジネス交流の「場」、チャレンジの「場」の創造

市民がリラックスできる場所は、多くの人が集まり・交流できる場所にもなり、コミュニティの維持にもつながります。また、様々な人・企業が集まるイノベーション創出拠点アウレアを中心としたビジネス交流のほか、学生・若者をはじめ多くの人々がチャレンジ出来る場を創ることで新しい魅力や価値が生まれるクリエイティブなまちにつながります。

⑥ 快適で便利な都心居住の実現

交通結節機能の強化、新たなモビリティの導入など快適な移動手段の充実のほか、歩きたいまちなか形成のための緑地・歩道の整備、空き家のリノベーションや空き地を利活用した緑化の推進が必要です。

⑦ 市民参加による都市経営

まちづくりにはプレイヤーが重要であり、できるだけ多くの人にまちづくりに関わってもらえるように、場の提供やマッチングのほか市民参加によるまちづくりの推進に向けて啓発などが必要です。

(2) まちなかの目指す姿

○まちなか再生の考え方より、大牟田らしい Well-being に向けて、ターゲットに応じた“3つのWa（環・輪・和）”を実現する、まちなか再生を目指します。

○「大牟田のまちなか」からたくさんのWaが生まれ、それらが市内外へつながり大きなWaへと拡がることで、魅力ある未来を創造します。

目指す姿

[広域でとらえた市民]

環：「環・有明海の顔となる」まち

- 有明海を囲む広域エリア一帯の顔になり、一つの環でつなぐ
- ・緑あふれるシンボリックな都心空間が形成されている
 - ・魅力的な都市機能が集積している
 - ・広域エリアの中心として様々な交流の場となっている

[将来の市民]

輪：新しい価値が生まれる「クリエイティブな」まち

- クリエイティブやイノベーションで新たな輪を生み出す
- ・様々な人や企業、情報が集まっている
 - ・多様な活動がミックスされ、新たなチャレンジが生まれている

[現在の市民]

和：みんなが楽しみ「誇りを持てる」まち

- 安全快適な都市空間へ市民共生の和を広げる
- ・安全、快適便利で都心居住が進んでいる
 - ・ウォーカブルなエリアに市民の憩いの場が広がっている
 - ・様々な市民活動が根付いている



プロジェクトのキャッチフレーズ

Wa!! Omuta



ロゴは、環有明海の中心に大牟田があること、取組みが育ち、緑が深まっていく様子を、ひらがなの「わ」で表現しています。

03 「まちなか再生」未来ビジョン

(3) エリアの将来像

○まちなかエリアのうち、特に着目エリアについては、地区の特性に応じた5つのゾーンを設定し、個性を生かした大牟田らしいまちなかをつくりまします。

ウェルフェアゾーン（新栄町・商店街エリア）

ウェルフェアゾーンは、西鉄新栄町駅から大牟田川沿いにかけてのエリアであり、医療・福祉といった特色ある新栄町駅前における市街地再開発事業の進捗に合わせ、周辺商業の充実と、様々な世代が交流する新しい都心の実現を目指します。

まちなか居住・ミクストユースゾーン（大牟田駅西側エリア）

まちなか居住・ミクストユースゾーンは、西鉄大牟田駅から西側の居住や商業のエリアであり、空き家や空地を活用して魅力あるお店やスペースが出現し、居住エリアとしての魅力が上がり、歩いて回りたくなるエリア、そして若者居住が進み、新しいコミュニティを生み出すエリアを目指します。

イノベーションゾーン

（線路と国道208号に挟まれたエリア）

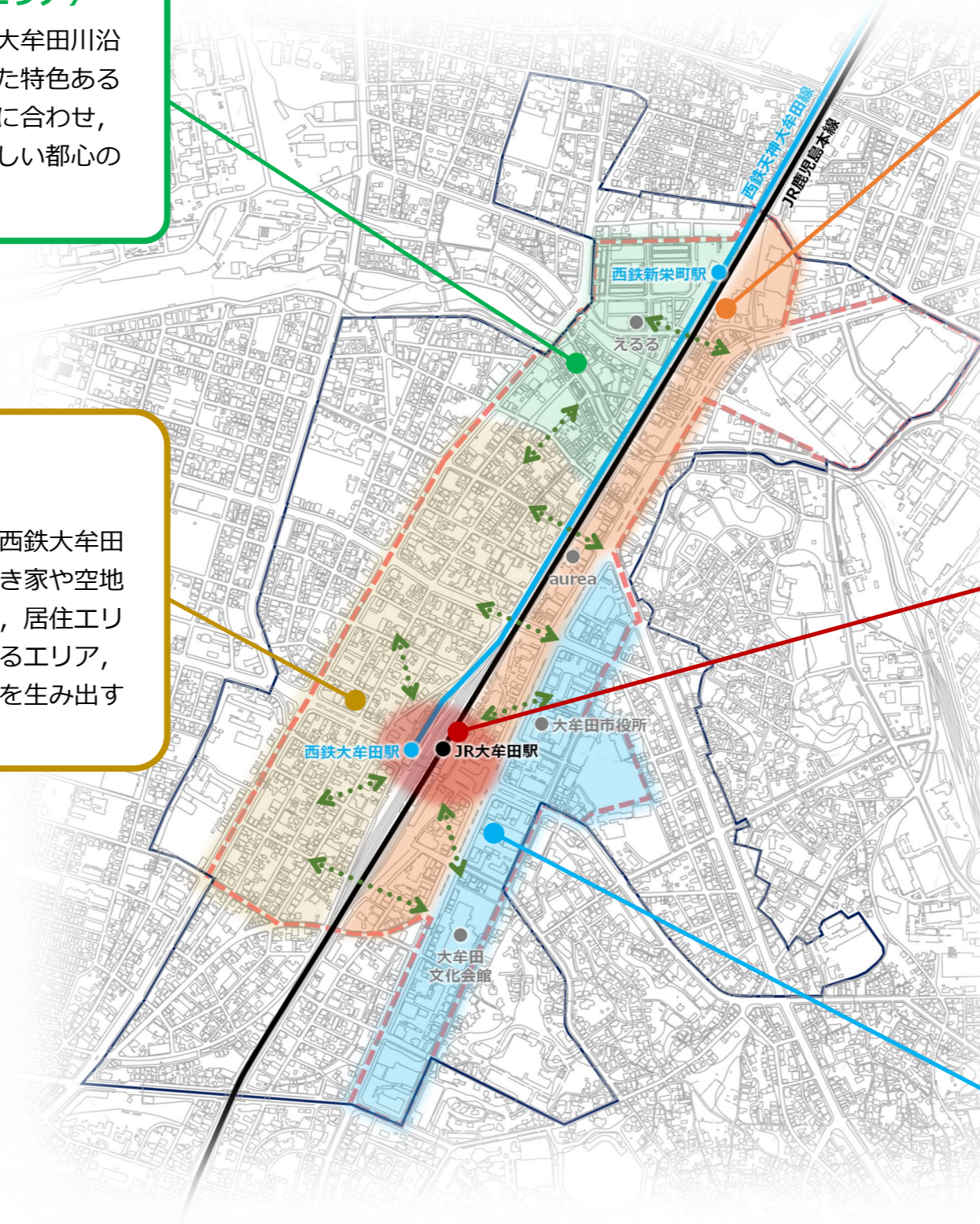
イノベーションゾーンは、aureaを中心とした線路と国道208号に挟まれたエリアであり、新しい企業進出や地元企業、若者、学生が新しいことにチャレンジし、活躍できるエリアを目指します。

エントランスゾーン（大牟田駅周辺エリア）

エントランスゾーンは、JRと西鉄の大牟田駅を中心としたエリアであり、都市の交通結節点としての機能強化を図り、訪れる人の玄関口としての顔づくりと、賑わいがあり滞留できる居心地の良い場づくりを進め、環・有明海の中心都市「大牟田」のエントランスに相応しい魅力あるエリアを目指します。

パブリックゾーン（国道208号東側エリア）

パブリックゾーンは、大牟田市役所を中心に公共機関をはじめ、金融機関やオフィスが集まる国道208号東側エリアであり、市庁舎の建替えを契機に、環・有明海の広域機能やビジネス拠点として、緑豊かな空間整備を進め、市民や来訪者が心地よく滞在できるエリアを目指します。



03 「まちなか再生」未来ビジョン

(4) 実現イメージ

■ エントランスゾーン（大牟田駅周辺エリア）…駅前の顔づくりと広場の賑わいや回遊性のイメージ

都市の交通結節点としての機能強化を図り、訪れる人の玄関口としての顔づくりと、賑わいがあり滞留できる居心地の良い場づくりを進め、環・有明海の中心都市「大牟田」のエントランスに相応しい魅力あるエリアを目指します。

次世代モビリティによる
都市間移動（ドローンタクシー）

駅前における
都心居住の推進

スムーズな乗り換えが可能となる
交通結節機能の充実化

多様な都市機能が集積した
新しい駅空間のイメージ

駅と市民広場をシームレスに繋ぐ
快適な歩行者動線

緑があふれ多様な世代が
交流する駅前広場

シェルターの設置等による
快適な歩行者動線の確保

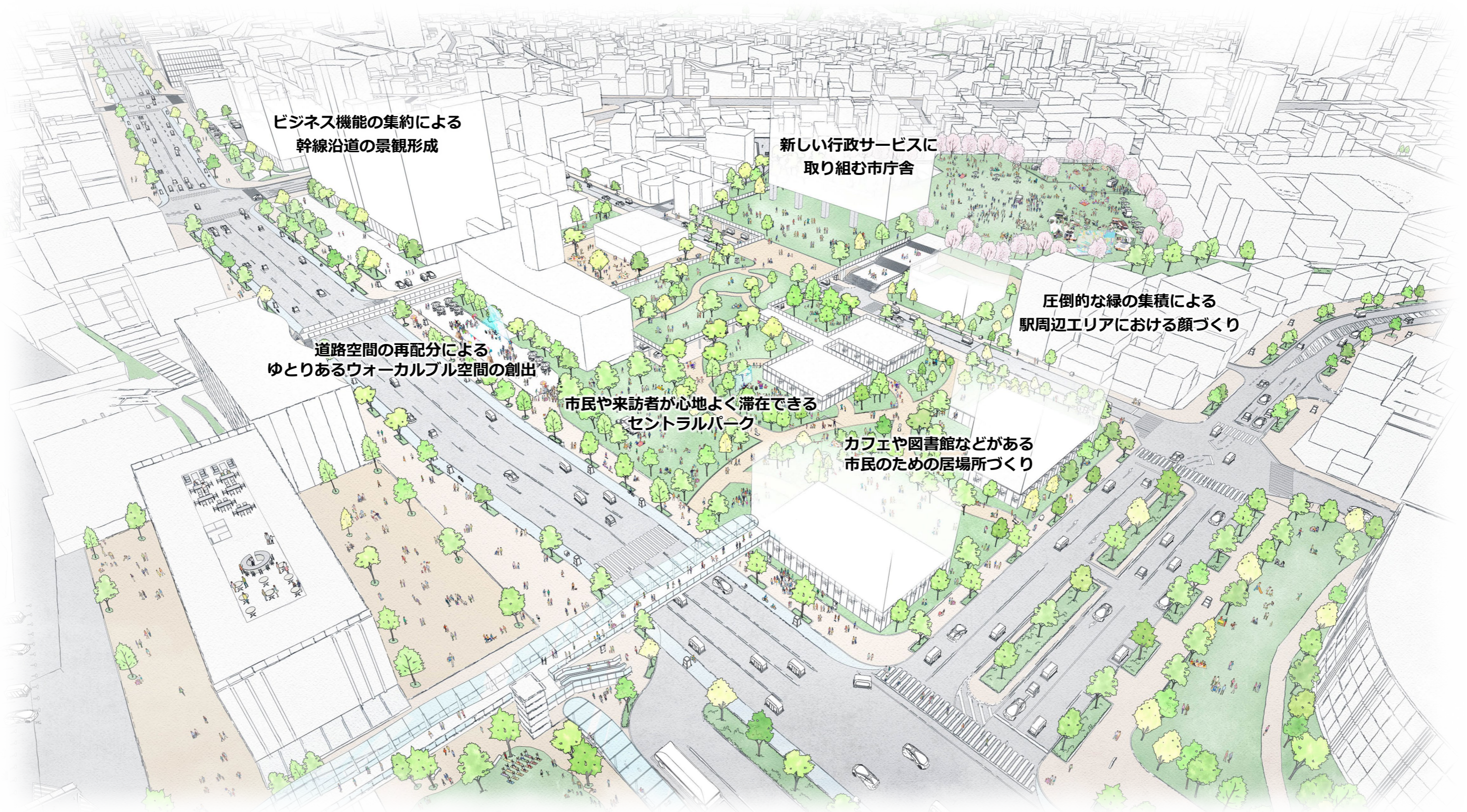
誰もが安全で安心して利用できる
次世代のモビリティ空間

本イメージは、将来のまちに必要な機能や景観などを図示したものであり、具体的な配置や規模を示すものではありません。

03 「まちなか再生」未来ビジョン

■パブリックゾーン（国道 208 号東側エリア）・・・緑豊かな空間構成のイメージ

大牟田市役所を中心に公共機関をはじめ、金融機関やオフィスが集まるエリアは、市庁舎の建替えを契機に、環・有明海の広域機能やビジネス拠点として、緑豊かな空間整備を進め、市民や来訪者が心地よく滞在できるエリアを目指します。

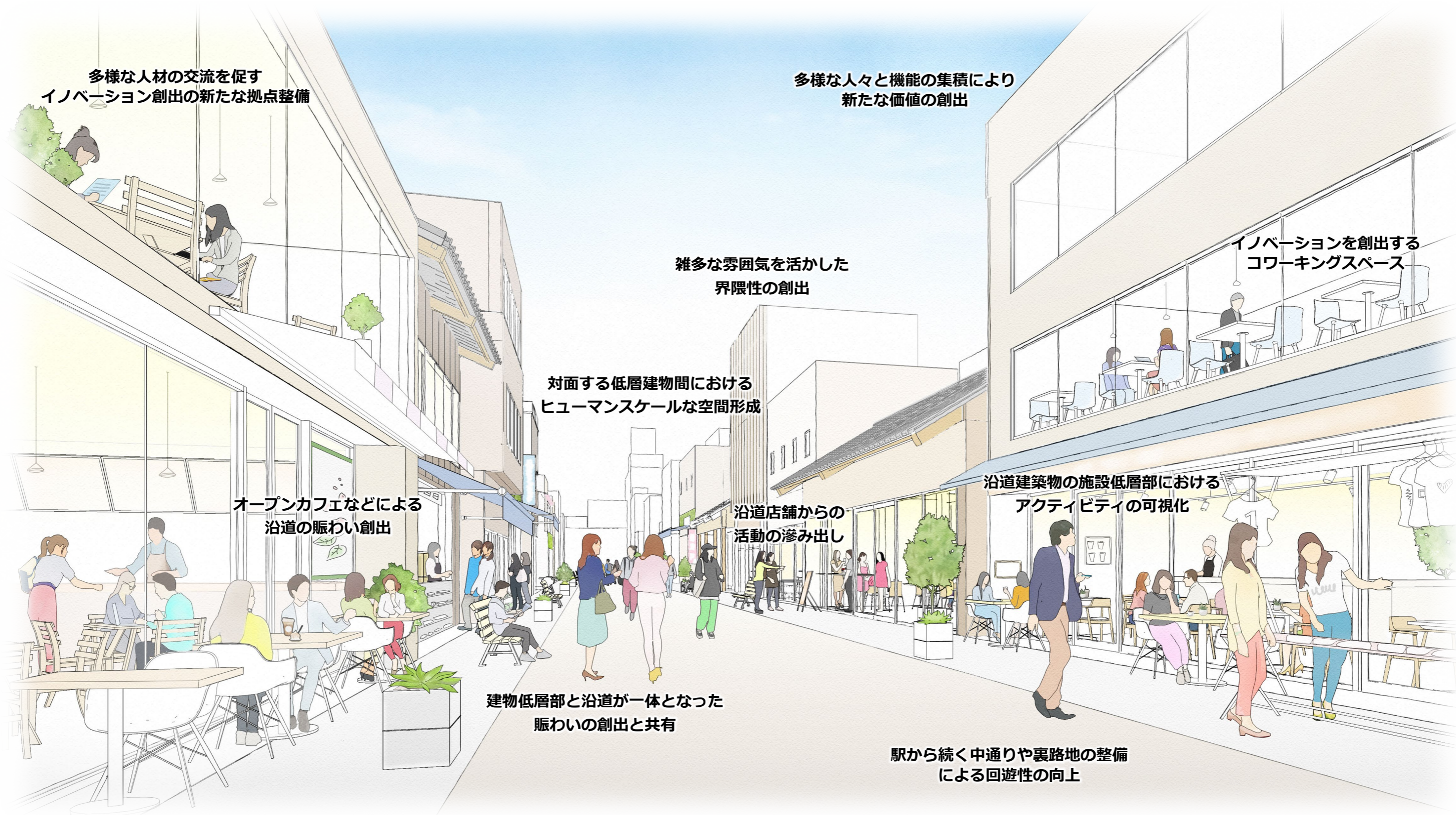


本イメージは、将来のまちに必要な機能や景観などを図示したものであり、具体的な配置や規模を示すものではありません。

03 「まちなか再生」未来ビジョン

■イノベーションゾーン（線路と国道 208 号に挟まれたエリア）…まちなかの活力を牽引する空間構成のイメージ

aurea を中心とした線路と国道 208 号に挟まれたエリアは、新しい企業進出や地元企業、若者、学生が新しいことにチャレンジし、活躍できるエリアを目指します。

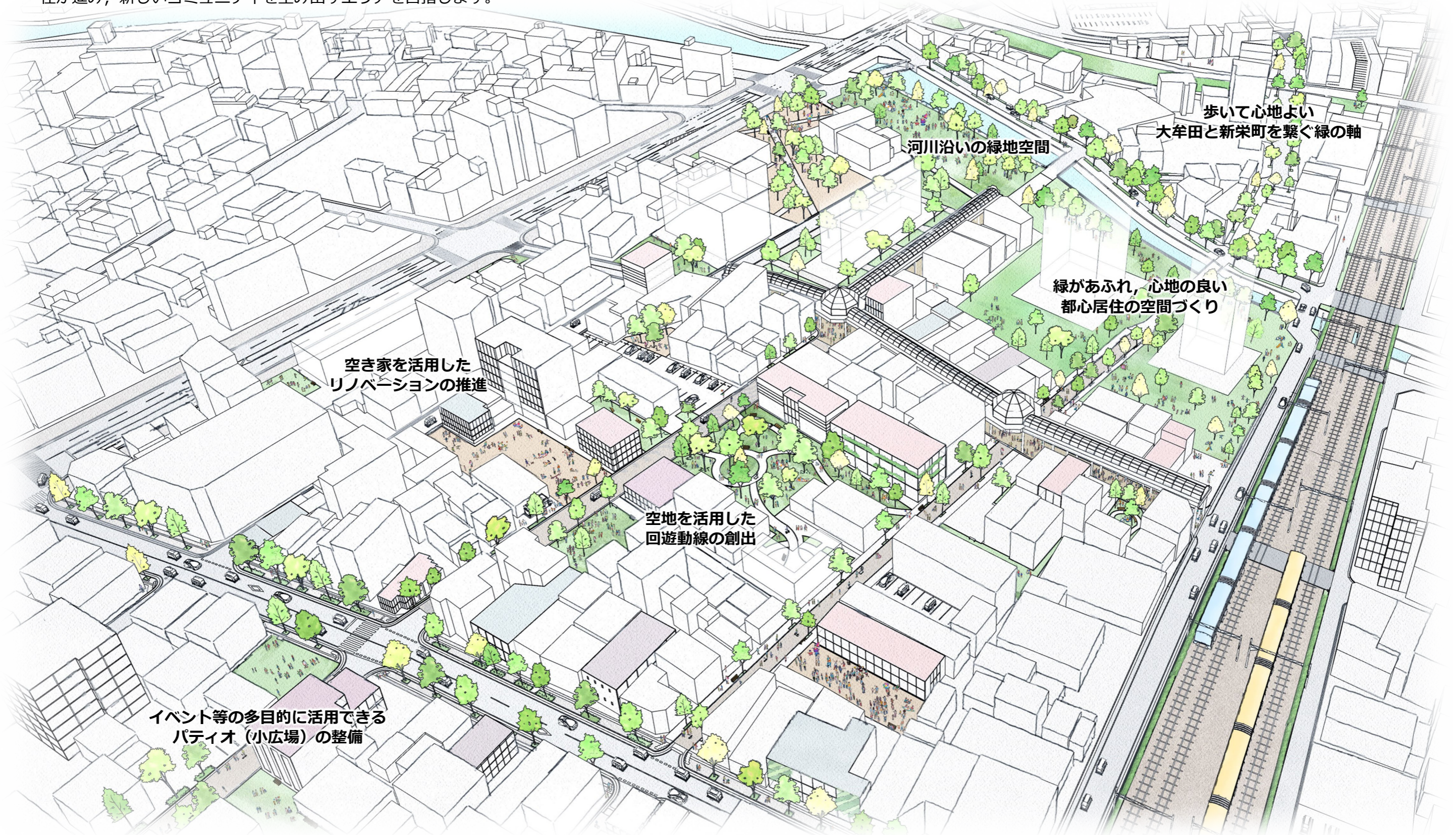


本イメージは、将来のまちに必要な機能や景観などを図示したものであり、具体的な配置や規模を示すものではありません。

03 「まちなか再生」未来ビジョン

■まちなか居住・ミクストユースゾーン（大牟田駅西側エリア）・・・空き家・空地を活用した都心居住の空間イメージ

西鉄大牟田駅から西側の居住や商業のエリアであり、空き家や空地を活用して魅力あるお店やスペースが出現し、居住エリアとしての魅力が上がり、歩いて回りたくなるエリア、そして若者居住が進み、新しいコミュニティを生み出すエリアを目指します。

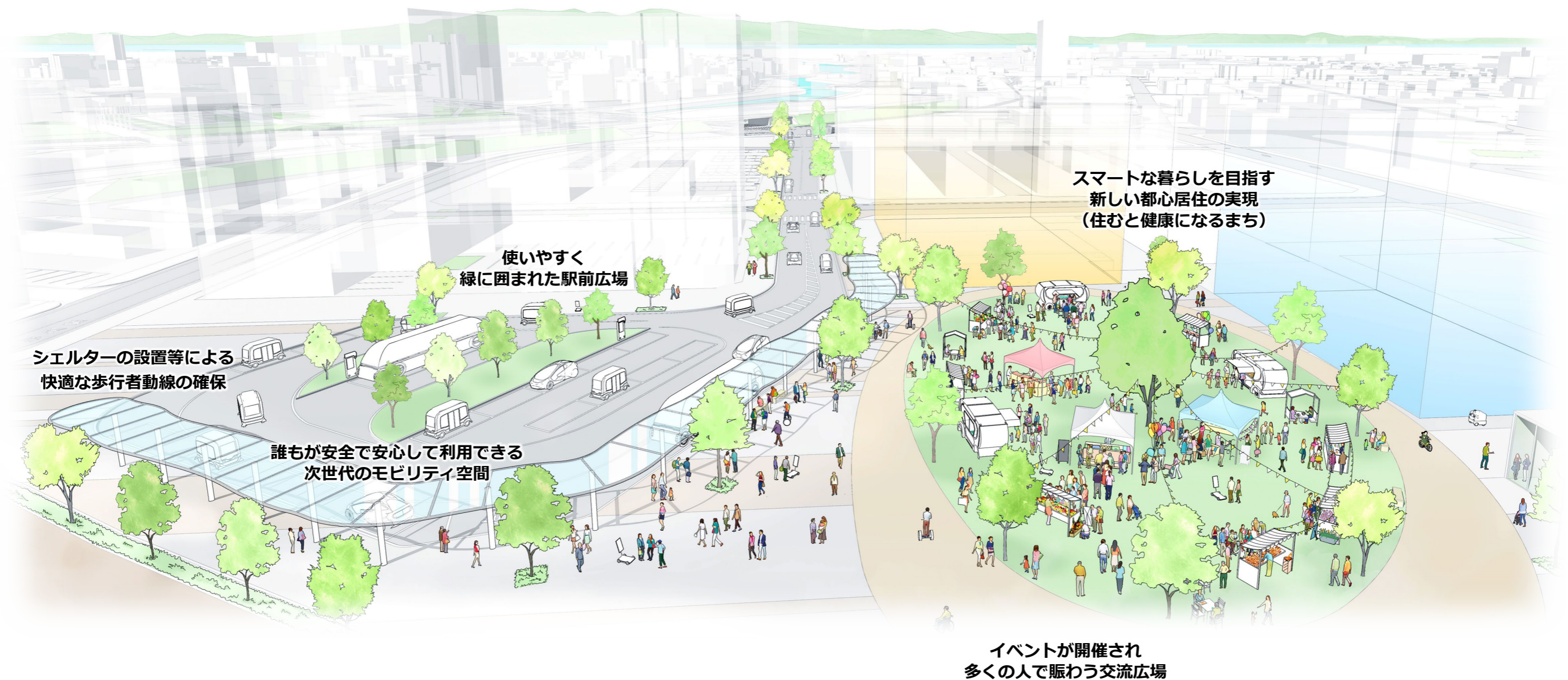


本イメージは、将来のまちに必要な機能や景観などを図示したものであり、具体的な配置や規模を示すものではありません。

03 「まちなか再生」未来ビジョン

■ウェルフェアゾーン（新栄町・商店街エリア）…健康をテーマとしたスマートな暮らし・活動のイメージ

西鉄新栄町駅から大牟田川沿いにかけてのエリアは、医療・福祉といった特色ある新栄町駅前における市街地再開発事業の進捗に合わせ、周辺商業の充実と、様々な世代が交流する新しい都心の実現を目指します。



本イメージは、将来のまちに必要な機能や景観などを図示したものであり、具体的な配置や規模を示すものではありません。

04 今後の進め方

(1) リーディングプロジェクト

- まちなかの将来像実現に向けて、3つのハード整備と2つのソフト事業に組織構築を加えた、リーディングプロジェクトを設定します。
- リーディングプロジェクトはUDC主導のもと、エリア協議会等を設立し、具現化に向けた検討を実施していくこととなります。

1. 大牟田駅周辺エリアの機能再編と顔づくり

- 都市インフラの再編（駅前広場再編、道路空間の見直し）
- 市庁舎周辺のエリア再編、連鎖的建替え
- 市民憩いの広場の整備（防災、避難広場）

2. 空き家・空地を活用したまちづくり

- まちなか居住・創業等による新たな機能の導入
- 空き家のリノベーション促進
- 空地の活用（緑化、コミュニティ広場の拡大）

3. 新栄町駅を中心とした健康・福祉と賑わいのまちづくり

- 法定再開発事業の推進
- 関係機関（大学や医療機関等）と連携した健康・福祉の取り組み
- 大牟田川まで続く憩いと賑わいの場づくり

4. 災害に強いレジリエントなまちづくり

- 防災イベント等の開催
- 老朽危険家屋の除去推進
- 防災公園の整備

5. 人の力が光るイノベティブな場づくり

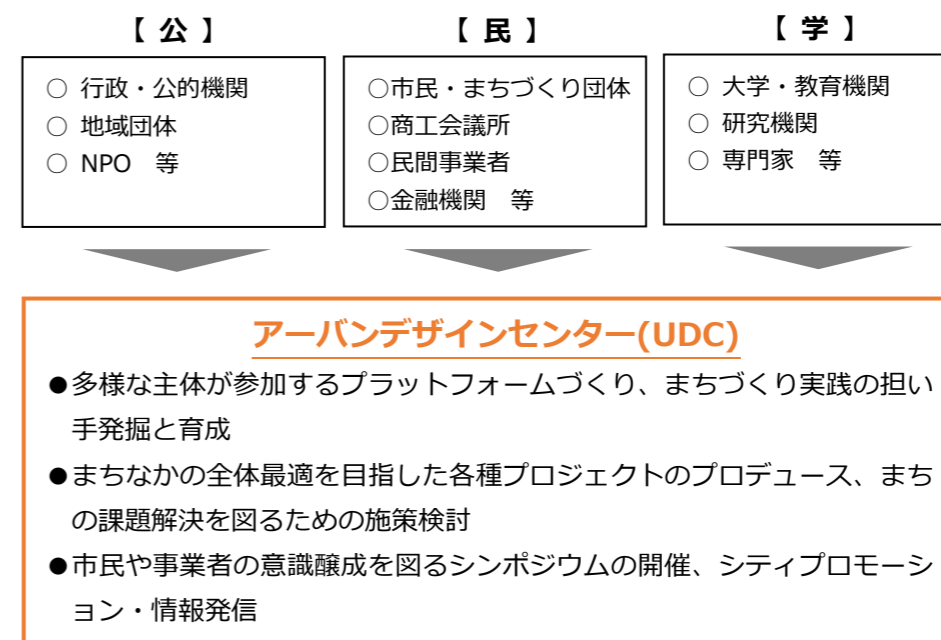
- 学生アイデアコンペの開催
- 若者チャレンジの場づくり（ビジネスサポートセンター等との連携）

6. 多様なプレイヤーが関わるプラットフォームづくり

- 公・民・学連携組織（UDC）の設置
- プロジェクトの実践・プロデュース
- 取組みの情報発信と外部ネットワークの拡大
- 市民のまちづくり参加の仕掛けづくり

(2) 新たな推進体制の構築

- これまで未来ビジョンは、エリアに関わる多様な立場の人で構成する「大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム（APF）」にて検討してきました。
- これから未来ビジョンを実現していくため、エリアプラットフォームの機能を引き継ぎ、大牟田市と並走する公・民・学連携組織として、「アーバンデザインセンター」を設立します。その狙いは、次のとおりです。
 - ・行政を支える「都市の第2エンジン」として機能すること
 - ・行政や民間が、単独では出来ないことを「共同して実現する」ための組織とすること
 - ・市民や学生・若者が、まちづくりに参加するための場とすること



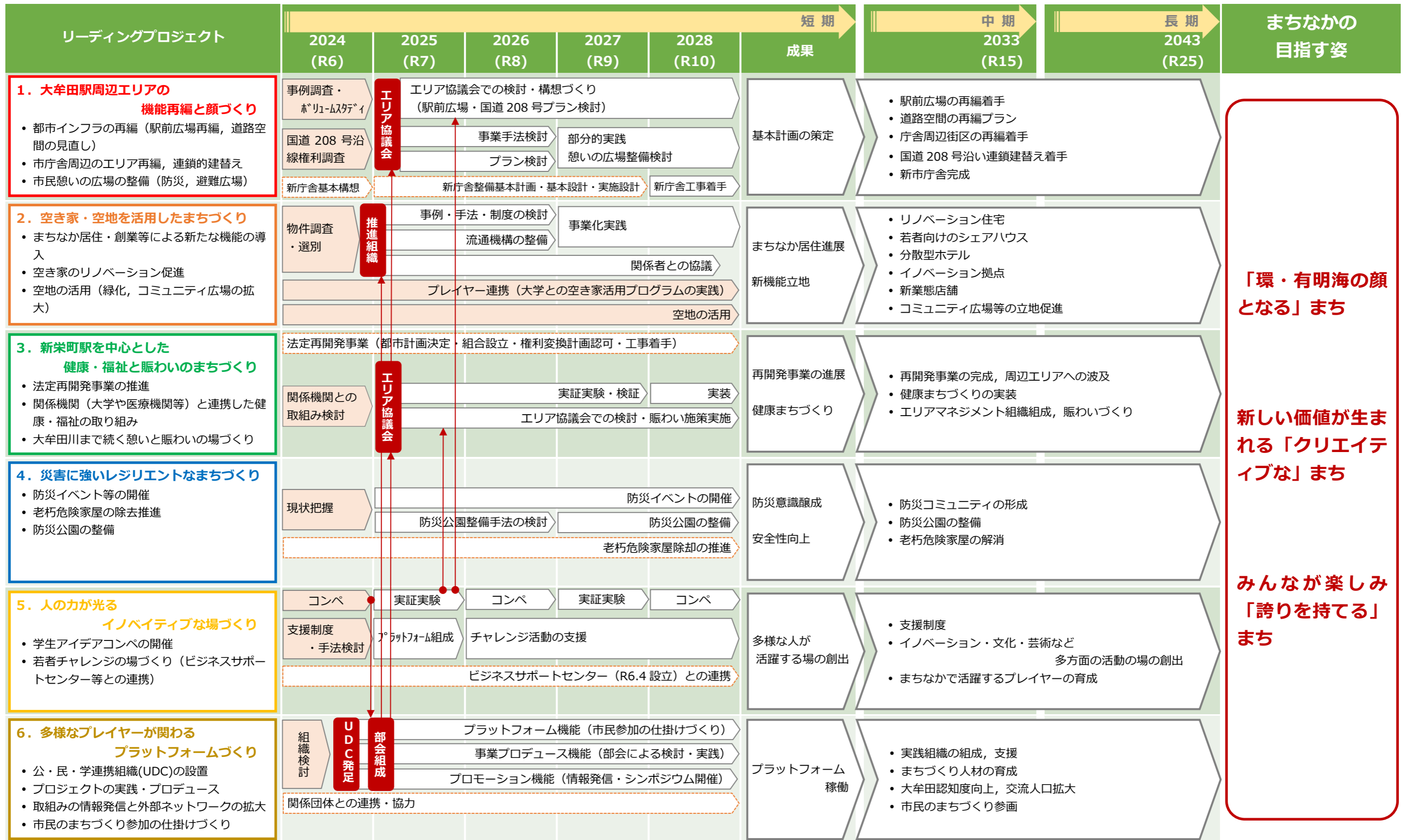
(3) ロードマップ

- 目指す姿の実現に向けて、リーディングプロジェクトを推進していきます。



04 今後の進め方

(4) リーディングプロジェクトロードマップ



「環・有明海の顔となる」まち

新しい価値が生まれる「クリエイティブな」まち

みんなが楽しみ「誇りを持てる」まち

凡 例： 2024年度当初から取組む事業 エリアプラットフォームが連携する事業

※本ロードマップは，策定時の目標として設定したものであり，今後の検討や実証実験の結果を踏まえ，変更することがあります。

巻末資料

大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム

○目的（規約第3条）

エリアプラットフォームは、大牟田のまちなかにおいて、官民が連携し一体となって、居心地がよく訪れたいくなる歩きたくなる魅力的なまちなか空間の形成及びそれを実現する事業等の実施を通じて、エリアの活性化や魅力向上等に寄与するとともに、エリア価値の維持・向上に繋げていくことを目的とする。

○活動内容（規約第4条）

エリアプラットフォームは、前条の目的を達成するために、次に掲げる活動を行う。

- (1) エリアプラットフォームの運営に関する事項
- (2) 当該エリアにおける未来ビジョン（以下、「未来ビジョン」という。）の策定及び改廃に関する事項
- (3) 未来ビジョンの実現に向けた調査、検討及び事業実施に関する事項
- (4) その他、前条に掲げる目的の達成に必要な事項

○大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム委員（令和6年3月現在）

※（氏名）は前任者を示す

区分	所属	氏名	備考
学識経験者	東京大学大学院 副学長	出口 敦	座長
	東京都市大学大学院 教授	宇都 正哲	副座長
	九州大学大学院 教授	黒瀬 武史	副座長
	有明工業高等専門学校 准教授	正木 哲	
	帝京大学福岡医療技術学部 教授	本田 城二	
まちづくりの推進を図る活動を行うことを目的又は活動に関心を有する者	三井物産株式会社九州支社 支社長	中村 隆三	
	沖電気工業株式会社 常務執行役員 ソリューションシステム事業本部長	片桐 勇一郎	
	TOPPAN デジタル株式会社 ICT 開発センター サテライトオフィス戦略部 部長	宮竹 哲哉	
	大牟田商工会議所 専務理事	奥蘭 征裕	
	大牟田市中心地区商店街連絡協議会 会長	山田 耕治	
	一般社団法人中小企業家同友会大牟田支部	久保田 洋	
	大牟田建設業協同組合 理事長	今村 勝之	
	福岡県宅地建物取引業協会県南支部 副支部長	伊東 和徳	
	一般社団法人大牟田青年会議所 理事長	清水 敬仁 (板床 匡倫)	
大牟田市校区コミュニティ連絡協議会 副会長	萬矢 勝保		
交通事業者	九州旅客鉄道株式会社 経営企画部 担当部長	神崎 諭 (高山 智宏)	
	西日本鉄道株式会社 専務執行役員	清水 信彦	
金融機関	株式会社三井住友銀行 理事 九州法人営業本部長	溝口 剛 (吉安 弘慶)	
	株式会社福岡銀行 県南地区本部長	荒木 智裕	
	株式会社西日本シティ銀行 大牟田支店長	山田 博憲	
	大牟田柳川信用金庫 理事長	裕原 誠	監査役
	株式会社日本政策投資銀行九州支店 企画調査課長	後藤 明	
独立行政法人	独立行政法人都市再生機構九州支社 都市再生業務部 担当部長	中川 一郎 (山下 昌宏)	
福岡県警	大牟田署 総務課長	阿部 正朗 (檜木 明)	
市町村	大牟田市 産業経済部長	吉田 尚幸 (湯村 宏祐)	

○大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム幹事（令和6年3月現在）

所属	氏名	備考
大牟田市 産業経済部 副部長	藤丸 直也	幹事長
大牟田商工会議所 地域振興課 課長	井上 壮一郎	副幹事長
有明工業高等専門学校 准教授	正木 哲	
西日本鉄道株式会社 まちづくり・交通・観光推進部 課長	辻 国彦	
九州旅客鉄道株式会社 経営企画部 担当課長	高木 圭一郎	
独立行政法人都市再生機構九州支社 都市再生業務部 まちづくり支援課 主幹	中村 崇二	
公共空間活用分科会 (株式会社福岡銀行 大牟田支店 副支店長)	井上 恵太	
空き家・空地・空き店舗活用分科会 リーダー (大牟田商工会議所 青年部)	田中 達憲	
空き家・空地・空き店舗活用分科会 副リーダー (大牟田建設業協同組合 理事長)	今村 勝之	
産業イノベーション分科会 (TOPPAN デジタル株式会社 福岡サテライトオフィス 課長)	中村 嘉貴	
交通戦略分科会 リーダー (沖電気工業株式会社 ソリューション統合 SE 部 部門長)	越野 仁明	
災害レジリエンス分科会 リーダー (明治安田生命株式会社 久留米支社 大牟田北営業所 営業部長)	川内丸 哲	

活動記録

- 令和5年 2月27日 エリアプラットフォーム設立総会
- 令和5年 6月 5日 臨時総会（書面開催）
- 令和5年 6月30日 第1回幹事会
- 令和5年 7月19日 第2回幹事会
- 令和5年 7月24日 第1回全体会
- 令和5年 9月14日 第3回幹事会
- 令和5年 9月23日 大牟田まちなか再生シンポジウム
- 令和5年10月25日 第4回幹事会
- 令和5年11月17日 第5回幹事会（書面開催）
- 令和5年11月29日 第2回全体会
- 令和6年 1月22日 第6回幹事会
- 令和6年 3月 1日 第7回幹事会（書面開催）
- 令和6年 3月28日 第3回全体会

